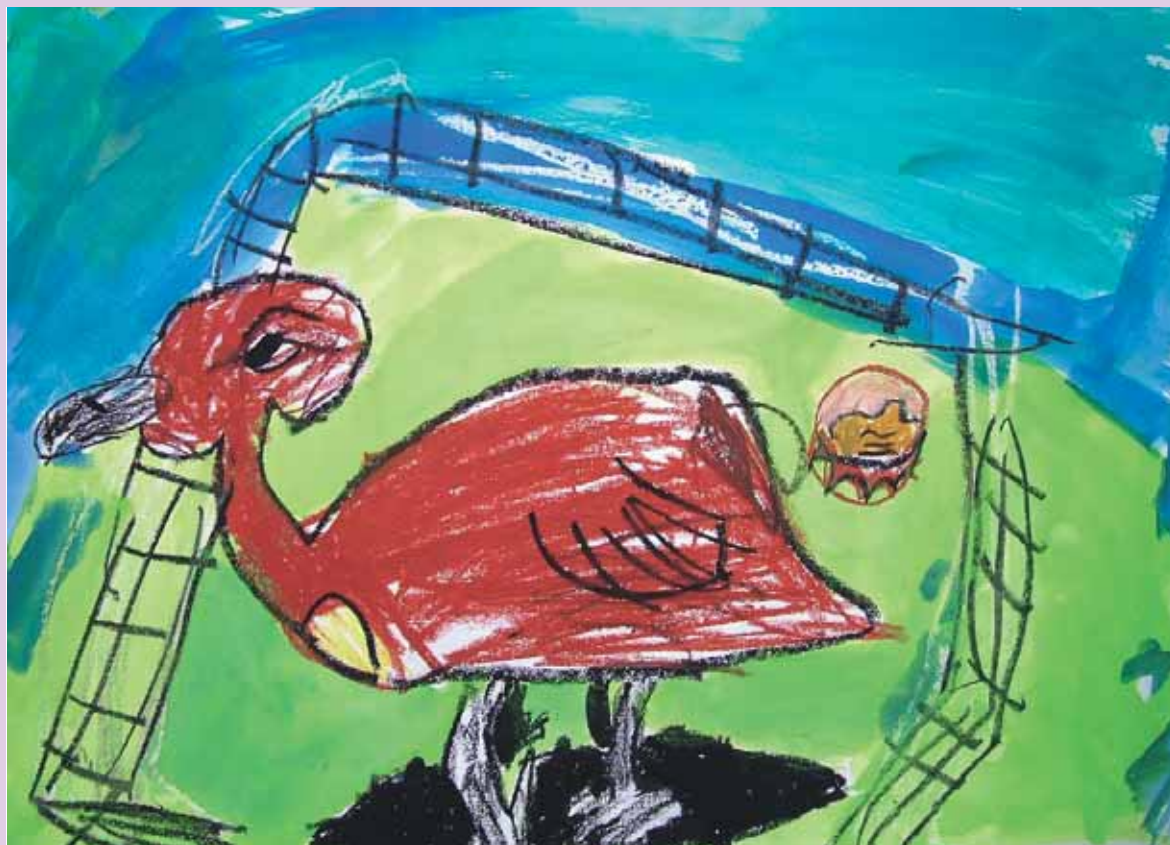


◎特集1 / 新たな入学者選抜制度の概要について

◎特集2 / 豊かな未来をはぐくむ高校教育推進事業②

- 学びの意欲向上推進事業
- 命の大切さを学ぶ体験活動
- 県立考古博物館第24回特別展
「甲府盆地から見たヤマトー甲斐銚子塚古墳出現の背景ー」
- 子どもの読書活動推進スキルアップ講座
- 県立博物館開館一周年記念特別展
「祈りのかたち 甲斐の信仰ー山懐に抱かれた、みほとけたち。ー」
- らくがき …… 中央高校 佐野和規教諭
わかば養護学校 秋山保美教諭
- 県立文学館企画展「正岡子規とその時代」
- 学校紹介 / 甲府市立国母小学校・韮崎高校
- 総合教育センター情報 / 教育相談部
- 新教育委員長就任あいさつ
- 県立図書館 / 「図書館員の道具箱…テーマ別調べ方ガイド…」
- 山梨の文化財 / 県指定無形民俗文化財 下市之瀬の獅子舞
- 主な行事予定



特集1

新たな入学者選抜制度の概要について

―新しい学校づくり推進室―

山梨県教育委員会は、去る5月17日に平成19年度の入学者選抜に関する基本事項と、各高等学校が定める「教育方針、志願してほしい生徒像、前期募集選抜方法」を公表しました。

平成19年度入学者選抜から、普通高校の通学区区域がなくなるとともに、総合選抜制度が廃止されることにより、受検生は県内のどこからでも、希望する公立高校への志願が可能になります。

新たな入学者選抜は、県立高等学校の全日制課程の全ての学科及びコースと、甲府市立甲府商業高等学校で実施されますが、ここで制度の概要について説明したいと思います。

1 全日制前期募集

①募集人員 募集定員のうち、次の範囲の中から各高等学校が定めます。(各高等学校の募集定員は11月上旬に公表予定)

ア 全日制普通科(コース及び単位制を含む)
募集定員の10%～30%(コ

ー指定については、普通科の率と同じとします)

イ 専門教育学科(理数科、英語科、文理科及び国際教養科)
募集定員の20%～40%

ウ 職業に関する学科
募集定員の30%～50%

エ 総合学科
募集定員の20%～40%

オ 出願資格 前期募集に出願できる者は、次の条件をいずれも満たす者です。

ア 中学校若しくはこれに準ずる学校又は中等教育学校の前期課程を平成19年3月卒業若しくは修了見込みの者

イ 当該高等学校を志望する動機や理由が明白・適切であり、各高等学校が定める「出願の条件」に適合すると自ら考える者

③出願の制限 一人一校、一学科に限りです。

④検査 面接のほか、各高等学校が必要と認める場合は、作文、特技、個性表現のいずれか(組合せも可

能)を併せて実施します。

⑤選抜方法 各高等学校が定める「選抜資料比重」に基づき、調査書、面接及び各高等学校が実施する検査の成績を総合判定します。

2 全日制後期募集

①募集人員 募集定員から前期募集の入学内定者数を減じた数を募集します。(各高等学校の募集定員は11月上旬に公表予定)

②出願資格 後期募集に出願できる者は、次の条件のいずれかを満たす者です。

ア 中学校若しくはこれに準ずる学校又は中等教育学校の前期課程を卒業若しくは修了した者又は平成19年3月卒業若しくは修了見込みの者

イ 外国において、学校教育における9年の課程を修了した者又は平成19年3月修了見込みの者

ウ 文部科学大臣が中学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該

課程を修了した者又は平成19年3月修了見込み者

エ 中学校を卒業した者と同等以上の学力を有する者として文部科学大臣の指定した者

オ 保護者が就学させる義務を猶予又は免除された子女等で、文部科学大臣が別に定めるところにより、中学校を卒業した者と同等以上の学力があると認定された者

カ その他高等学校において、中学校を卒業又は修了した者と同以上の学力があると認められた者

③出願の制限

ア 一人一校に限りです。

イ 全日制及び定時制の両課程を併願することはできません。

ウ 職業に関する二つ以上の小学校・コースを有する高等学校で、小学校・コース別に募集している場合、志願者は学科・コースに、第二希望まで志望順位を付けることができます。

エ 専門教育学科の志願者は、志願先高等学校の普通科を第二希望とすることができます。

④学力検査 検査教科は、国語、社会、数学、理科及び英語の5教科、配点は各教科100点です。(専門教育学科及び普通科のコース指定に

については、検査教科の配点をえらび、行うことがあります。

⑤ 選抜方法

ア 調査書及び学力検査の成績を総合判定します。

イ 判定に当たっては、調査書の記録と学力検査の成績を同等に扱います。

ウ 専門教育学科がある高等学校の全日制普通科（単位制を除く）

の選抜は、まず普通科の募集人員の90%を普通科を第一希望とする者から選抜（端数切捨て）し、残りの募集人員について、90%枠の選抜に漏れた普通科を第一希望とする者に、普通科を第二希望とする者を加えて、差をつけずに選抜します。普通科を第一希望とする受検者が普通科の募集人員の90%に達しない場合は、その達しない数を普通科を第二希望とする者から選抜します。

3 全日制再募集

① 実施校 前期募集及び後期募集の結果、入学許可予定者が募集定員に満たない場合に実施します。

② 出願資格 後期募集の学力検査受検者（病気等やむを得ない理由により学力検査を受検することがで

きなかつたと志願先高等学校長が認める者を含む）で、出願時に国・公・私立のいずれの高等学校にも合格していない者です。

③ 検査 面接のほか、作文又は新たに行う学力検査を実施します。

④ 選抜方法 後期募集の学力検査結果及び調査書と併せて、再募集に当たって実施する面接及び作文又は新たに行う学力検査の結果を総合判定して行います。

4 定時制課程入学者選抜

① 出願資格 全日制の課程における後期募集に準じます。

② 出願の制限 全日制の課程における後期募集に準じます。

③ 検査 学力検査及び面接を実施します。検査教科は、国語、社会、数学、理科及び英語の5教科で、配点は各教科100点です。

④ 選抜方法 調査書、学力検査の成績及び面接の結果を総合判定します。

5 定時制課程再募集

① 実施校 入学者選抜の結果、入学許可予定者が学科の定員に満たない場合に実施します。

② 出願資格 全日制の課程における後期募集に準じます。

③ 出願の制限 全日制の課程における後期募集に準じます。

④ 検査 学力検査及び面接を実施します。検査教科は国語、数学及び

英語の3教科です

⑤ 選抜方法 調査書、再募集に当たっての学力検査及び面接に基づいて行います。

6 その他

詳細については、別に定める「平成19年度山梨県公立高等学校等入学者選抜実施要項」によります。（10月下旬公表予定）

平成19年度 入学者選抜の日程



9月20日基準日	第1次進路希望調査
11月上旬	公立高校募集定員の発表
12月20日基準日	第2次進路希望調査

志望校選定 「教育方針」「志願してほしい生徒像」「前期募集選抜方法」 進路相談 ハイスクールガイド オープンスクール etc.

	全日制	定時制
1月	12日(金) 前期募集出願期間	
	15日(月) 前期募集検査	
	16日(火) 前期募集検査	
	24日(水) 前期募集検査	
	25日(木) 前期募集検査	
2月	2日(金) 合格発表	
	15日(木) 後期募集出願期間	定時制出願期間
	16日(金) 後期募集出願期間	定時制出願期間
	19日(月) 後期募集出願期間	定時制出願期間
	21日(水) 後期募集出願期間	定時制出願期間
3月	22日(木) 後期募集出願期間	定時制出願期間
	23日(金) 後期募集出願期間	定時制出願期間
	6日(火) 後期募集検査	定時制検査
	7日(水) 後期募集検査	定時制検査
	14日(水) 合格発表	定時制合格発表
	15日(木) 再募集出願期間	定時制再募集出願期間
	16日(金) 再募集出願期間	定時制再募集出願期間
	19日(月) 再募集検査	定時制再募集検査
20日(火) 再募集検査	定時制再募集検査	
22日(木) 再募集合格発表	再募集合格発表	
23日(金) 再募集合格発表	再募集合格発表	
26日(月) 再募集検査	再募集検査	
28日(水) 再募集合格発表	再募集合格発表	

前期募集	面接 調査書	*作文 *特技 *個性表現
後期募集	学力検査(5教科) 調査書	
再募集	後期募集の学力検査結果 面接 調査書	*作文 *学力検査

※ *印は、各高校が必要に応じて実施

定時制	定時制検査	学力検査(5教科) 面接 調査書
定時制再募集	定時制再募集検査	学力検査(3教科) 面接 調査書

※ 再募集は、欠員があった高校(学科)で実施

4月 公立高校入学

特集2

豊かな未来をはぐくむ高校教育推進事業②

高校教育課

○全県立高校が、左のサポート事業から三事業以内を選択して実施します。

- a 自己啓発・自己実現学習サポート
- b 中学校と高校との交流教育サポート
- c 課題解決能力・表現力・奉仕の精神を育てる学習サポート
- d 自己表現力を育てるプレゼンテーション学習サポート
- e 豊かな人間性を育む教養講座サポート
- f 特色ある学校づくりの学習活動サポート

○高校教育課は各校の事業内容を精査し、その事業が生徒の思考力・判断力・表現力を育むことができるよう、さらに各校が生徒や地域の実態を十分踏まえ創意工夫を生かした特色ある学校づくりができるようサポートするものです。

(予算総額四〇〇万円)

○各校においては、例えば左記のような、多様かつ特色あるサポート事業が展開されています。

- ①「総合的な学習の時間」等と連動させて、キャリア教育的な事業（インターンシップの推進等）に取り組む高校

②地域住民も参加するフェスタを開催する高校
本事業が、生徒や地域の実態を十分踏まえた高校づくりに貢献してきたことが窺えます。

○全校より「生徒に還元できる有益な事業」との声が寄せられていますが、この事業は、平成一六年度から一八年度にかけての三力年事業であるため、この成果を踏まえ、各学校がさらに特色ある学校づくりが推進できるように新規事業に継承・発展させていきたいと思っています。

○甲府第一高等学校の実践例

「総合的な学習の時間」を使ったキャリア教育
「同窓生の生き方に学ぼう」

本校一年生の「総合的な学習の時間」では、「自分を知り、自らの将来設計を考える」をテーマとして、生徒に自己の「在り方・生き方」や「進路」について考えさせる学習活動を行っています。

その一環として、昨年度より各方面で活躍している同窓生を招き、その仕事内容ややり甲斐、

課題等を聞く機会を設けています。この取組は、同窓の先輩という身近な方々から具体的な話を聞くことにより、進路意識や自己実現への意欲を高め、望ましい職業観・勤労観を育てることを目標としています。

本年度は、生徒の希望をもとに開講する職業分野を検討し、最終的に次の七分野に決定して、七月十二日に九名の講師を招いて実施しました。

- 1 会社経営者 2 報道・翻訳者 3 医師 4 公務員 5 太神薬師 6 薬剤師 7 看護師

当日は、各会場で緊張した面持ちの生徒が、初対面である先輩方の体験談をメモに取りながら聴き入る姿が見られました。講師の方々も資料やビデオテープ等を用いて、熱心の後輩達に語りかけてくれました。生徒の感想には、「実際に職業に従事している人の生きた言葉に感銘を受けた」、「現実の厳しさを実感した」等、講演会から得るものがあつたとする声が多く、好評でした。

長きにわたって多くの人材を輩出している本校の特性を活かしたこの取組を、今後も継続して行きたいと考えています。



甲府第一高校の取組

観の育成に欠かせない学習となつていきます。一、二年生ではテーマ別の七々九のゼミ学習により、課題解決学習を行っています。特に、発表活動ではプレゼンテーションを通じたコミュニケーション能力の開発に力を入れています。また、各分野で活躍されている外部講師の先生方の講演は、人生の先輩としての貴重なお話を聴く機会となっています。

二 インターンシップ実施

T S の学習をより実践的なものとするために、昨年度から二年生の学習にインターンシップを位置づけ、

全員が各事業所において就業体験をしています。今年度はさらに

実施日数を夏休み中の二日間とし、派

遣事業所数も六十四に拡大し、より生徒の希望に添った体験学習となっています。生徒にも好評で、「厳しい仕事の現実を実体験でき、身の引き締まる思いがした。今後自分の進路選択に役立て、学習に力を注ぎたい。」という感想が多く聞かれました。

これらの事業は前年度の反省や要望等をふま



山梨高校の取組

え、何回かの改訂を経て、ますます時代に即したものとなっています。今後も生徒が誇りに思う「梨高のT S」になり、社会で立派に生きていく人材開発に貢献することを目指したいと思っています。

○ 山梨高等学校の実践例

一 総合的な学習（テーマスタディT S）

山梨高校のT Sは、平成十二年度にスタートし今日に至っています。三年間で在り方生き方を系統的に学ぶことを目的に、一年生で「進路学習」、二年生で「進路研究」、三年生で「進路探求」を各テーマとし、生徒の進路意識や職業

学びの意欲向上推進事業

―義務教育課―

学びの意欲向上推進事業

■事業の目的

平成十七年十月、中央教育審議会から「新しい時代の義務教育を創造する」と題した「答申」が発表され、学習指導要領改訂に向けての検討や作業が進められています。この中で、現在の義務教育が抱える課題として、児童生徒の学び意欲の低下が挙げられています。

「学ぶ意欲の低下」については、PISAなどの国際的な学力調査でも「勉強が楽しい」「学習習慣が身に付いている」あるいは「学校で学んだことが生活の中で役立つ」と考えている子供の割合が諸外国に比べて低いという結果が報告されています。

「学ぶ意欲」は、学習面のみならず生活面への影響も大きく、特に人格形成の基礎を担う義務教育諸学校においては、その重要性和緊急性が課題とされてきました。

県教育委員会では、平成十四年度から十六年度までの三か年間「基礎学力向上やまなしプラン」事業に取り組み、「各教科における基礎基本の確認」と「家庭での活動との連携」等につ

いての研究を進めてきました。これらは、すでに教育課程指導資料「子どもたちが輝くとき」として冊子ならびにCDにまとめられ、各学校及び全教師に配布されています。

県教育委員会では、「学ぶ意欲の向上」を指すに当たり、これまでの研究成果を基にして、その効果をより有効に活用し、研究を進めていくことを考えました。これが、平成十七年度より二か年で取り組んでいる「学びの意欲向上推進事業」です。

■事業の内容

児童生徒の学習意欲を高めるための手だてや方法はいろいろ考えられますが、本事業で目指す「意欲」は、各教科等の授業はもちろん、学校で学んだことを家庭や地域など、日常生活の中でも積極的に活用していかうとするようなレベルを目指しており、事業名に付いている「意欲」が、単なる「学ぶ意欲」ではなく、「学びの意欲」となっているのも、こうした思いが込められているからです。

本事業は、小中学校で子どもたちの指導にあたっての教員から選ばれた各教科及び領域の

委員と担当指導主事によって構成される「教育課程研究委員会」（年間六回開催）での研究と、小中各五校ずつの研究指定校での実践的な研究とを両輪として進められ、相互に連携し、相乗効果をねらっています。その内容として、

- ① 「基礎学力向上山梨プラン推進事業」の成果を生かした学習指導の工夫
- ・ ねらいの明確な授業づくりによる学びの意欲の向上
- ・ 「学習指導の手引き」などを生かした指導の工夫による学びの意欲向上
- ② 学びの意欲につながる評価の工夫
- ・ 児童生徒一人一人が学びの成果を実感できる評価の在り方
- ・ 年間指導計画の見直し を挙げています。

■事業の経緯

昨年度は、研究一年目の成果を、

- ① 「確かな学力」の向上を目指して
- ② 見えるわかる評価規準
- ③ 年間指導計画例
- ④ 指定校の取組

の4つを主な内容とするCDとその概要版となるリーフレットにまとめ各学校に配布しました。また、今夏の教育課程研究協議会において、配布したCDの各校の活用状況をアンケートにより把握するとともに研究成果についての啓発を行いました。

【教育過程指導資料等】



〔平成15年度〕



〔平成15年度〕



〔平成16年度〕



〔平成17年度〕



〔平成17年度〕

－ 学びの意欲向上推進事業研究指定校一覧 －

学校名	研究教科	研究テーマ	公開予定日
高根中学校	英語 美術	学びの意欲を高める，学習指導と評価活動の展開	10月 20日
一宮中学校	社会 音楽	課題に気づき，主体的に活動する生徒の育成 －学びの意欲向上を図るための指導と評価の一体化を通して－	10月 27日
千塚小学校	理科 音楽	学ぶ楽しさを実感し，自ら進んで学ぶ子どもの育成 －学びの意欲を引き出す指導と評価の工夫を通して－	11月 1日
松里小学校	算数 図画工作	子どもたち一人一人の学力を高める研究 －学びの意欲を高める指導の工夫－	11月 2日
上野原小学校	国語 体育	目標をもち，生き生きと学ぶ子どもの育成 －ねらいと評価を明確にした国語科・体育科の授業づくり－	11月 2日
河口湖南中学校	国語 保健体育	自ら学び続ける生徒の育成 －学びの意欲につながる評価と指導方法の工夫－	11月 8日
武川小学校	社会 家庭	自ら学ぶ意欲を高めるための指導のあり方 －社会科・家庭科の学習を通して－	11月 15日
北西中学校	数学 技術(家庭)	自ら意欲的に学ぶ生徒の育成 －やる気を引き上げる効果的な指導方法の研究－	11月 15日
西嶋小学校	算数 生活	学ぶ意欲を支える授業の創造 －算数科・生活科の授業づくりの研究を通して－	11月 17日
増穂中学校	理科 (技術)家庭	主体的に学び，活動する生徒の育成 －生徒の学習意欲を高める授業づくりを中心にして－	11月 28日

今年度もこれまでに三回の研究委員会を開催してきました。また、これと併行して指導主事による各指定校への学校訪問も積極的に進めてきました。いずれの学校においても、今年度は、研究のまとめの年として、上の一覧表にあるようなテーマと内容で公開研究会を計画しています。

また、研究全体をCDにまとめるに当たり、成果をよりわかりやすく、かつ目に見えるものにするために、できる限り具体的な子どもの姿や客観的なデータ等によって示す努力を続けているところです。CDの内容は「導入編・本編・資料編」の三部構成とし、特に、本事業の概要及びCDの活用方法について説明する「導入編」については、自動起動によって説明が開始するような工夫を考えています。さらに、小中学校の全教員がこのCDの内容を活用して「学ぶ意欲」についての主体的な取組を進めるためのテキストも作成する計画です。

■事業内容の普及

これらのCDならびにテキストについては、二月中旬の「平成十九年度学校教育指導重点説明会」の折に各校長に説明し、二月下旬には、すべての小中学校への発送を完了する予定です。

各学校においては、これらの資料を年度末・年度初めの研究計画に取り入れるなど、効果的な活用と「学びの意欲」を向上させるためのさらなる取組をお願いしたいと思います。

命の大切さを学ぶ体験活動

桂高等学校

桂高校は、平成十七年度に文部科学省より

「命の大切さを学ぶ体験活動」の研究指定を受けました。本年度は、そのまとめとして研究活動が行われています。

具体的には、以下の5点が主な取り組みとして挙げられます。

1 「マインド」

これは、全校一斉の読み聞かせによる読書放送のことで、毎週水曜日の朝のショートホームルームの時間に実施しています。季節や行事に合わせた話題を探し、「命」に関連づけながら、詩やエッセイ、小説等の一節を、生徒と教員が朗読する読書会です。

「心を耕す読書」として位置づけています。

2 「平和学習」

これは、主に2学年の取り組みで、沖縄への修学旅行に関連させた学習として実施しています。事前学習はもとより、当地での調べ学習や聞き取り調査を行い、戦時下の「人命」について考え、現代社会に生きる我々の「命」のあり方についての理解を深めることが目的です。

3 「赤ちゃんふれあい体験事業」

都留市健康推進課の協力を得て、市内の乳幼児20人とその保護者が参加する中で、離乳食の試食、妊婦体験、赤ちゃんだっこ体験を行い、命の重さを実感することを目的としています。



4 「文化局地域交流会」

これは、都留地域の老人クラブの方々を招いて、高齢者と高校生の交流を深めるものです。高校生からは、文化部の発表をし、老人クラブの方々からは合唱を披露していただきました。十七年間継続した交流会で、昨年は二百人余りの出席がありました。

5 「各種講話等」

① 「心肺蘇生法」 ② 「防犯講話（少年鑑別所と青少年の犯罪）」 ③ 「保健講話（生命の誕生と子育て）」 ④ 「教育講話（車いすのスポーツジャーナリスト中田昌氏）」等の講話を聞くことにより、「命の大切さ」を体験できることを目的としています。終了後、各自感想文を書きました。生徒にとっては、どれも大変好評でした。



今年度はまとめとして、校内で作成した規準に基づき、アンケートや課題作文等を実施し、研究の評価をする予定です。

県立考古博物館第24回特別展 「甲府盆地から見たヤマト―甲斐銚子塚古墳出現の背景―」

県立考古博物館

考古博物館がある甲斐風土記の丘公園には、古墳時代前期では東日本最大の規模を持つ国指定史跡甲斐銚子塚古墳があります。この古墳は、四世紀後半に築造された全長一六九mの巨大な前方後円墳で、昭和三年に石室から出土した三角縁神獸鏡をはじめとする豊富な副葬品とその石室構造等から、従来から畿内との強い結びつきを指摘されてきました。この甲斐銚子塚古墳は、昭和六十一年に周溝一部を残して史跡公園として整備されました。残された一部の周溝の整備が平成十七年度に完了し、古墳全体の姿を見ることができるようになりました。



この古墳整備に先だつて平成十六年度に行つた発掘調査では、新たに後円部北側に周溝の中に突出部と、その周溝内から区画堤が確認されました。さらに周溝内からは、完全な形の円板

形・蕨手形の木製品を含む複数個体の儀礼に關わる木製品が多数出土するなど、いくつもの新たな事実が確認されました。



これら墳丘・周溝の特徴、多数の木製品の出土などの新たな発見で、甲斐銚子塚古墳が極めて畿内的な古墳であることが再確認されるに至り、再び注目されています。

以上の発掘調査成果を踏まえるとともに史跡整備事業の完了を記念して、甲斐銚子塚古墳だけでなく、中部・東海・畿内各地域の古墳から出土した三角縁神獸鏡に代表される銅鏡をはじめとする様々な副葬品・埴輪・土師器など一堂に展示します。そして、甲斐銚子塚古墳出現の背景について多角的に再考することで、ヤマト政権との関わり及び東日本での位置づけ、さらに「甲斐（甲府盆地）」という東国の一地域から見たヤマト政権について考える特別展を開催

します。

また、この特別展への理解を深めるために、講演テーマの第一人者による三回の特別講演会を開催します。

■主催 山梨県立考古博物館・文化庁（重要文化財等公開促進事業）

■会期 平成十八年十月七日（土）～十一月二十六日（日）五日日間（全日開館）

■会場 山梨県立考古博物館

■観覧料 一般・大学生六百円（団体四百八十円）、小・中・高生三百円（団体二百四十円）

■記念講演

・第一回 平成十八年十月十五日（日）
午後一時三十分より

「甲斐銚子塚古墳とヤマト政権」
白石太一郎 奈良大学教授

・第二回 平成十八年十月二十九日（日）
午後一時三十分より

「甲斐銚子塚古墳と東海系文化」
赤塚次郎 愛知県埋蔵文化財センター

・第三回 平成十八年十一月十二日（日）
午後一時三十分より

「古墳における儀礼」
土生田純之 専修大学教授

子どもの読書活動推進スキルアップ講座

―社会教育課―

子どもの読書活動は、子どもたちが言葉を通じて、豊かな感性や情操を磨き、表現力や創造力を豊かなものに、人生をより深く生きるための力を身に付けていく上で非常に大切なものです。子どもの読書離れが進んでいる現在、すべての子どもがあらゆる機会と場所において、自主的に読書活動を行えるような、積極的な環境整備が必要です。

そして、子どもの読書活動の推進を図るためには、子どもの身近にいて、子どもと本とを結びつける大人の存在が不可欠です。

社会教育課では、「山梨県子ども読書活動推進実施計画」（平成17年3月）に基づき、平成18年度新規事業として、子どもを持つ方・図書館職員・学校図書館職員・幼稚園教諭・保育士・図書館ボランティア・放課後児童指導員など、子どもの読書に関わる人々を対象に、子どもの読書活動を推進するための理論と技術を身につけるための研修「子どもの読書活動推進スキルアップ講座」を行う

こととしました。今年度は「子どもと絵本・連続講座」というテーマで、年間5回の講座を山梨大学との共同企画により行っています。

第1回（6月21日）「子どもの自分づくりと絵本・児童文学の世界」（講師 山梨大学教育人間科学部教授 加藤繁美氏）では、自我の発達や言葉の獲得など、幼児の発達段階の過程において、絵本がどのような役割を果たすのかについて御講演いただきました。



第2回（7月22日）「誰でもつくれる!! おもしろアイデア絵本」（講師 絵本作家 木村研氏）では、簡単なしかけ絵本やおもちゃづくりを通して、創作の楽しさ、絵本の魅力や可能性について教えていただきました。



第3回（9月13日）「読み聞かせ実践講座」（講師 図書館ボランティアやまなし代表、山梨英和大学非常勤講師 齊藤順子氏）では、読み聞かせ初心者の方を対象として、読み聞か

せの目的や、どんな本を、どんな風に読んであげたらよいかなどを教えていただきました。いずれも大勢の方に御参加いただき、大変好評でした。今後は、

・第4回（11月15日）「絵本の育て方―絵本を読むこと、作ること―」（講師 絵本作家 いたうひろし氏）
 ・第5回（1月16日）「絵本の世界と性―心、いのち、ジェンダー―」（仮）（講師 山梨大学教育人間科学部助教 授 秋山麻実氏）
 を予定しております。興味のある方は是非御参加ください（参加費無料）。

この事業を通して、子どもたちが日常的に過ごす場所で、本に親しみ、読書の楽しみを知るためのよりよい実践が行われることを願っています。
 ※お問い合わせ先〓社会教育課社会教育振興担当

（電話〇五五―二三―一七七一）

祈りのかたち 甲斐の信仰

山懐に抱かれた、みほとけたち。

— 開館一周年記念特別展 十月十四日より開催 —

— 県立博物館 —

昨年十月に開館した山梨県立博物館は、今秋、一周年を迎えることとなります。当館ではこの記念の時にあたり、「祈りのかたち 甲斐の信仰」と題して、記念特別展を開催することとなりました。

古より、人々は神や仏に祈りを捧げ、彫像、絵画、墨跡をはじめとした「祈りのかたち」を数多く生み出してきました。現在遺されているそれらは、それぞれの時代を生きた人の手によって守り伝えられてきた、信仰の歴史であるといえるのではないのでしょうか。

国分寺や国分尼寺が建てられ、国家規模で仏教が発展した、奈良時代。また、貴族たちが密教の教えに現世の利益をもとめる一方、極楽への往生を阿弥陀に願う浄土信仰が盛んとなった、平安時代。そして、新たな時代の担い手となった武士たちが好んだ、力強い造形が生み出された、鎌倉時代。それぞれの時代の中で、甲斐の人々も、実に多彩な仏を生み出し、思いを託してきました。それは時に、力強さの中に大らかな息吹を感じさせる如来像であり、繊細にして優美な菩薩像であり、また、あるいは忿怒の形相を以て人々を導く明王像だったのです。



吉祥天坐像（福光園寺・重要文化財）



薬師如来坐像（大善寺・重要文化財）

一方、日蓮、他阿真教、夢窓疎石ら、日本仏教の中で礎を築いた祖師と呼ばれる人々が、山梨に縁の深いことは、あまり知られていないのではないのでしょうか。甲斐の人々は彼らの姿を像に刻み、その面影を大切にしてきました。現在残されている優れた祖師像の多くが、その思いの深さを伝えているように思えてなりません。

山梨に伝わる仏像、仏画は、これまでまとまって紹介される機会に恵まれませんでした。この展覧会では、国指定重要文化財十六件をはじめとして、県内有数の仏教美術の精華が一堂に集います。古の人々が思いを込めて創り上げた、「祈りのかたち」から、山梨の信仰の歴史を概観するはじめての機会となります。

甲斐の風土と、そこに生きた人々によって育まれてきた祈りの造形の素晴らしさ、そしてそれらが紡ぎ出す甲斐の豊かな祈りの世界を、この機会にぜひご覧下さい。



らくがき

「連携」

秋山 保美

平成18年度の特別支援教育体制推進事業の一環として、県下5地区に地区特別支援連携協議会が設置された。この会の目的は、推進地区におけるLD、ADHD、高機能自閉症を含めて障害のある児童生徒に対する教育支援体制の整備を推進するために、地域内のネットワークの形成及び研修、情報提供、相談支援システム等に関して検討することである。本校は北部地区特別支援連携協議会の事務局として携わらせていただいている。

この協議会のキーワードは「連携」である。メンバーは医療、福祉、保健、労働、教育等の関係者で構成されており、すでに各機関どうしの連携が密に行われているところもあるが、全体としては、お互いが顔見知りになるところからの出発となる。各々が何を考え、何を目指しているのかを知り合い、障害のある児童生徒の多様なニーズに応えるために、「一緒に何ができるのか」知恵を絞り、行動に移していきたい。

そのためには、まず我々教師が、目の前にいる一人一人の子どものニーズを的確に捉え、彼らの頑張りや、「一人で」ではなく「連携して」支えていくことの大切さを改めて感じている。

(わかば養護学校)



定時制に「出てきませんか」

佐野 和規

定時制高校に勤務して6年目になる。近年定時制高校には、いわゆる有職少年は少なくなり、不登校など様々な問題を抱え全日制には通えない生徒たちが多く在学するようになってきている。私は、こうした定時制の生徒たちと係わるのが好きである。

私は平成13年度に現任校に着任し最初夜間制の担任になったのだが、そのなかには養育を放棄されたり、虐待をうけてきたり、大きな精神的問題を抱えている生徒たちもいた。それらの生徒は得てして人なつこく、担任である私に近寄ってきて、いきなり話しかけてきたり、いたずらをしたりする。私も持っているボールペンや出席簿を取り上げて逃げ回る。リミットテストングといって、この担任がどんな先生で、どの程度のことをすると怒るか、限界(リミット)を試しているのだ。彼らが困難な生活の中で、大人との関係の取り方を模索するために身につけた生きるすべである。それから数年経ち、様々なドラマティックな出来事があり、それらの生徒たちの中には無事卒業した者もいれば、退学した者もいる。退学しても今でも連絡を取り合っている生徒もいる。

全日制に勤務している知り合いの教員からよく「そろそろ出てこないか」という言葉をかけられるが、あまり気持ちがいいものではない。その言葉の裏には、定時制での勤務が、本来の高校教員の勤務のあり方からはずれているようなニュアンスを感じるからだ。でも、定時制教育こそ、教育の根底を支えているのであり、純粋に理想をもって教科指導や生徒指導を追究していくことができる。その意味で、私は定時制高校が大好きである。私は、進学校や普通高校に勤務している先生たちにこそ、逆に普通高校から一度定時制に「出てきませんか」と声をかけたい。

(中央高校)

山梨県立文学館

企画展「正岡子規とその時代」

(9/23~11/23)

「柿くへば鐘が鳴るなり法隆寺」
明治二十八年に正岡子規が作った俳句です。

慶応三(一八六七)年、松山藩士の子として生まれた子規は、二十五歳の時、新聞「日本」の社員となり同紙に俳句欄を設置。江戸期以来の俳諧の発句とは違う、新しい時代の文学としての俳句を提唱しました。明治三十年に刊行された「ホトトギス」は多くの俳人を輩出し現在に続いています。

写真は、明治三十五年五月、子規が亡くなる年に病床から眺めた床の間の様子を描いた絵です。絵の中の軸は、松山藩士で画を巧みとした吉田蔵沢(そうたく)の墨竹。高浜虚子や河東碧梧桐ら松山出身者が多く集う東京根岸の子規庵において、この画幅は庵の象徴でした。卓は、門弟水落露石(みずおちるせき)から、砥部(とべ) 焼きの白磁瓶に活かされている芍薬は、伊藤左千夫から贈られたものです。寝たきりの状態の中で、当時最も楽しみとしていた写生画を描くことで苦痛を紛らわせていた子規の、末期(まつご)の眼に映った情景の「コマ」です。この四ヶ月後、「糸瓜(へちま) 咲(さい)て痰(たん)のつまりし仏かな」ほか二句を残し、子規は三十五歳の生涯を終えました。

本展では、明治という時代を背景に子規の生涯とその業績を紹介します。



子規「床の間写生図」
今治市河野美術館蔵

たげよう エコ活動の輪 ～環境教育への取組から～

甲府市立国母小学校

本校では、児童会や環境委員会が中心となって全校体制で環境教育の実践を行っています。

日常的な活動では「ダイヤモンドクリーン作戦」（ダイヤモンドは本校の校章であり、ダイヤモンドのように輝く心を持った人間や環境づくりを願って名付けました）としてリサイクル活動や全校ゴミ拾いなどに取り組んでいます。

山梨県教育委員会より「地域を育てる環境活動推進事業」の指定を受けその活動を保護者・地域へと広げていきました。

◇牛乳パックリサイクル

給食の後、各自が牛乳パックを洗い、クラスごとで切り開いた物を環境委員が集めます。甲府市の環境部の方が牛乳パックを定期的に集めに来てくれます。

◇親子環境学習

1年生から6年生まで親子で環境学習をしています。「親子で学習」「6年間続けること」をめざし「私たち

もゴミ減らし隊の一員に！」「なるほどエネルギー」等学年ごとテーマを決めて学習し、共通理解から共に実践を行っています。

◇荒川河川清掃

毎年11月23日に児童・保護者・地域の方で近くの荒川の清掃をしています。大きなゴミ袋10袋以上集まります。子供たちが清掃する姿を見て活動の輪が広がっています。

以上いくつかの活動の様子を紹介しました。すでに述べていますが、本校の活動は子供たちだけの活動でなく保護者や地域の方との連携でその輪が広がることをめざすものです。これらの活動が認められ昨年度は「環境美化教育優良校」として文部科学大臣奨励賞を頂きました。これからも、多くの人と共にエコ活動ができるよう、一人一人の実践と学校からの発信を続けていきたいと思ひます。



〔牛乳パックのリサイクル〕



〔荒川の河川清掃〕

「一人二芸の文武両道をめざして」

韮崎高等学校

「バランスのとれた人間を育てる」という本校の教育方針のもとに、生徒達は授業に真剣に向き合い個々に応じた学力を高め、放課後には部活動に精進し、運動部・文化部共に関東・全国でも活躍しています。

文武両道を支える教育環境づくりとして大切に考えていることは、規律の遵守と充実した学校行事の取り組み、更には、社会へ目を向けさせる様々な体験活動です。

新聞への投稿活動、韮崎駅ガード下の壁画作成を始めとする地域との連携交流事業やボランティア活動、

高齢者から生活の知恵や伝統を継承するふれあい教室、社会人講師を招聘して行う学習サポート事業、バイオテクノロジーを体験的に学ぶサイエンスレクチャー等々を通して、豊かな成長の足跡をみることが出来ます。

生徒達の清々しい挨拶や明るく健康的な表情、また、学園らしい雰囲気は、これらの教育指導に対して前向きに取り組む生徒とそれを支える教師の強い信頼関係が築かれているからであると思ひます。

一人二芸の文武両道をめざして、今後も日々精進し、活力ある学校づくりに努めていきたいと思ひます。



教育相談

山梨県総合教育センター 教育相談部

「教育相談とは、児童生徒の学校生活における学習相談、生活相談、進路・就職相談などを包括しての呼び名である。」と言われていました。本センターでは相談内容を次のように分類し、「電話相談」と「面接相談」の業務を行います。

- | | | |
|----------|--------|--------|
| ① 不登校 | ② いじめ | ③ 交友関係 |
| ④ 学業不振 | ⑤ 進路問題 | ⑥ 学校問題 |
| ⑦ 家庭問題 | ⑧ 情緒問題 | ⑨ 無気力 |
| ⑩ 反社会的問題 | ⑪ 生活一般 | ⑫ その他 |

【電話相談】

(いじめ・不登校ホットライン)

- ◇ 相談時間 午前九時～午後十時
 - ◇ 対応 専門の相談員
 - ◇ 対象 児童生徒・保護者・教員
 - ◇ 相談内容 いじめ・不登校に限らず児童生徒にかかわること
 - ◇ 土日・祝日・平日午後十時～翌朝九時 留守番電話で対応
- TEL 055-263-3711 みないい子
- ※秘密は厳守します。

本年度の電話相談件数は、七月末現在で昨年度同時期より多くなっています。また、相談内容を主訴別にみると、情緒問題、不登校、学校問題が大きな比率を占めています。状況によっては、面接相談へ繋がっています。

【面接相談】

- ◇ 相談時間 午前九時～午後五時 (月～金曜日)
 - ◇ 対応 専門の相談員
 - ◇ 対象 児童生徒・保護者・教員
 - ◇ 方法 親子並行面接が原則
 - ◇ 事前に相談日時を電話で予約
- (TEL 電話相談と同じ番号)
- ※秘密は厳守します。

本年度の面接相談件数も増加しており、昨年度同時期に比べ、約二倍になっています。また、主訴別では情緒問題、不登校、進路問



題の割合が大きくなっています。相談内容により相談者の了解のもと、関係諸機関と連携をとりながら相談業務を進めています。

こすもす教室より

こすもす教室は、不登校を続けている児童生徒が楽しく安心して通い、仲間とのふれあいを通して自立心を養い、学校への復帰をめざすための教室ですが、「訪問指導」も行っています。

家庭に引きこもりがちな児童生徒やその保護者が対象です。要請があれば、訪問指導員が伺いますので、各こすもす教室へご相談ください。

- 石和こすもす教室
 - ・ 笛吹市石和町市部五二四
 - ・ TEL 055-261-1271
- 葎崎こすもす教室
 - ・ 葎崎市若宮二丁目六一十二
 - ・ TEL 0551-22-1133
- 都留こすもす教室
 - ・ 都留市田野倉一三三一一
 - ・ TEL 0554-45-1161

新委員長に

井上一男氏が就任

県教育委員会では、曾根修一教育委員長の任期満了に伴い、七月十四日の教育委員会において、後任の第六十八代委員長に井上一男氏を選任しました。新委員長の任期は平成十八年七月十六日から平成十九年七月十三日までです。

子どもは山梨の、また日本の未来を担う国の宝であり、新しい時代に相応しい子ども達を育てる教育への期待はますます大きくなっていきます。

その一方で、子ども達の学習意欲、規範意識や道徳心の低下、基本的生活習慣の乱れなどが憂慮されています。また、児童生徒の安全確保、今後の特別支援教育の在り方など、いくつかの課題にも直面しております。

このような中で、子ども達が明るい未来を切り開いていくためには「豊かな心」「確かな学力」「健康と体力」を身につけさせることが必要であり、併せて郷土の豊かな自然や

● ひとこと ●



委員長
井上一男

歴史と文化に触れ、郷土への愛着や誇りを持たせることも大切で

また、来春から導入される県立高校の新しい入試制度については、十分な情報提供を行い、新制度のスムーズな導入を図るとともに、各学校が独自に特色づくりが推進できるように意を用いていきたいと考えています。

教育の成否は、教師一人一人の力によるところが大きいと考えています。諸々の施策を総合的に推進する中で「教師力」と「学校力」を強化し、それらを通じて子ども達の「人間力」を豊かに育てていきたいと考えています。

『図書館員の道具箱…テーマ別調べ方ガイド…』

山梨県立図書館

◆漢詩を調べるには

名言の由来であったり書道の題材に使われていたり、漢詩は意外と身近なところにあるものです。漢詩について調べるために役立つ資料をご紹介します。◇の中は請求記号（背ラベルの番号）です。

◇意味を調べる

『漢詩の解釈と鑑賞事典』（前野直彬 石川忠久共編 旺文社 1981）〈921-か〉

『中国名詩鑑賞辞典』（細田三喜夫編 東京堂出版 1977）〈921.03-ホ〉

◇題名・語句から調べる

『大漢和辞典 語彙索引』（東洋学術研究所編 大修館書店 1990）〈813.2-ロ-14〉

『漢詩名句辞典』（鎌田正ほか著 大修館書店 1980）〈159.8-ハ〉

◇作られた時代から調べる～中国～

『中国名詩鑑賞辞典』（山田勝美著 角川書店 1979）〈921-マ〉

『校注唐詩解釈辞典』（松浦友久編 大修館書店 1987）〈921.43-カ〉

『全梁詩索引』（森野繁夫校閲 白帝社 2000）〈921.4-ゼン〉

◇作られた時代から調べる～日本～

『日本漢詩鑑賞辞典』（猪口篤志著 角川書店 1980）〈919-イ〉

『平安朝漢文学総合索引』（平安朝漢文学研究会編 吉川弘文館 1987）〈919.3-ハ〉

◇詩人から調べる・詩人について調べる

『漢詩大系』（集英社 1980）〈921-カ 1~24〉

『作家名から引ける世界文学全集案内』（日外アソシエーツ 1992）〈903.1-サ〉

『日本漢文学大事典』（近藤春雄著 明治書院 1985）〈919.03-コ〉

県立図書館にはここで紹介した以外にも役立つ資料がありますので、ぜひご利用ください。



山梨の文化財



下市之瀬の獅子舞

県指定無形民俗文化財

下市之瀬の獅子舞

(平成十八年四月二十七日指定)

南アルプス市(旧櫛形町) 下市之瀬の獅子舞は、「梅川忠兵衛」と「八百屋お七」という二種の獅子狂言(獅子芝居)と高い芸のレベルで保持して伝承している点に特色があります。

また、この獅子舞は、小正月行事の中心的な役割を担っており、道祖神や神仏に奉納する獅子舞、結婚・新築などの祝い事のあった家や厄年の人の家での獅子舞、成人祝いと兼ねた娯楽的な要素を加味した獅子狂言の三種類に分けられ、民俗的な特色がみられます。

安政三年(一八五六年)の文書により、江戸時代から若者たちが獅子舞を担っていたことが解っており、明治時代には、「祝祭世話係」「永盟社」という若者組織により引き継がれていました。

小正月行事の一環として舞われてきたこと、ムラの芸能として継承されてきたことから、山梨県国中地域の獅子舞の特色を良く表した貴重なものであり、今後も円滑に継承されることが望まれます。

主な行事予定

県立博物館

開館一周年記念特別展

「祈りのかたち 甲斐の信仰」

10/14～11/20

県立美術館

特別展

「光の水墨画

近藤浩一路の全貌」

10/21～11/26

県立文学館

企画展

「正岡子規とその時代」

9/23～11/23

考古博物館

第24回特別展

「甲府盆地から見たヤマト

―甲斐銚子塚古墳出現の背景―

10/7～11/26

表紙を飾る



山梨県立ろう学校

小学部1年

渡邊 大士

作品タイトル
「かものかちゃん」

<作品の紹介>

「カモの赤ちゃんかわいいね!」と、とてもよく見てかきました。最初は、ちょっと怖くて触ることもできなかったけれど、すぐに抱っこもできるようになりました。ふわふわした小さな羽や胸の黄色い羽の様子など、発見したことを友達と話しながら楽しくかきました。

指導者 村松英子

「声かけ あいさつ」みんなで実践!!

◆教育に関する疑問、質問等がありましたらお気軽に E-mail 又はFAXして下さい。
アドレス: kyouikusom@pref.yamanashi.lg.jp FAX: 055-223-1744

◆教育やまなしのバックナンバーがインターネットでご覧いただけます。

URL: <http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/kyouiku/46150769857.html>